

「一度でもユニフォームの袖を通してもらいたい」事務局の願い

2021年7月31日（土）東京オリンピック・シティキャスト

「みんなの東京2020応援チャンネル」収録・配信会場の運営サポート

東京都庁内 14:00～16:30 天候 晴れ 東京都感染者4566名（過去2番目）



↑東京都庁

↑ユニフォーム展示（都庁内）

1、無観客で、東京シティキャストの「新たな活動」

7月8日、首都圏会場では無観客での開催が決定された東京オリンピック。池袋、渋谷、都庁で計5日間の活動（主にライブサイト会場周辺の案内）予定でしたが、ライブサイトも中止となり、全て白紙状態となってしまいました。そして多くの開催都市のシティキャストの活動の休止が余儀なくされました。

ところが東京都では「新たな活動」として「羽田空港での出国する選手の見送り」「東京スポーツスクエアでの来場案内」「聖火台周辺への来場者の声かけ、暑さ対策グッズの配布」「都庁内の大会関連展示周辺の来場者への声かけ」「パラリンピックギャラリー銀座での来場者案内」「パラ競技、パラアスリートへの応援メッセージ」「（パラリンピック）マラソン沿道付近における感染自粛呼びかけ」「学校連携観戦のため競技会場へ向かう児童・生徒たちの案内」などといった活動の募集を実施されました。そして高倍率の抽選に当選しての活動が急きょ決定した次第です。

2、「東京2020頑張ろう！」という応援メッセージ

大会9日目ちょうど折り返し日での活動となりました。都庁の1Fロビーは展望台への入場口、オリパラの入場式着用時のスーツ、オレンジ色のユニフォーム、そしてシティキャストとフィールドキャストのユニフォームが展示されていて、ここまでは誰でも入ることができます。（写真右）

私たち10名のシティキャストは別の入口で受付を済ませ、マネージャー（事務局）から当日のスケジュールとシティキャストの皆さんの自己紹介がありました。今回の活動は「みんなの東京応援チャンネル」というオリンピック盛り上げの動画の収録で、私たちは

刀を切るポーズで「東京2020頑張ろう！」と声を出し収録してもらいました。

こちらが終わると本来はライブサイトで世界各国の民族音楽、舞踊が演奏される予定でしたが都庁内のスタジオ収録に変わり、出演者の方へのお渡し品の振り分け、演奏鑑賞、お見送りでした。私たちの活動時間帯は韓国の民族音楽の演奏を行なっていました。演奏に来られた方たちも「無観客」でのパフォーマンスになってしまいました。その後終礼があり、わずか2時間半の活動は本当にあつという間でした。

3、事務局の皆さんに感謝

(都庁の職員と思われる)事務局の方が「シティキャストの皆さんには3年前から準備をしていただいたのに。せつかくに機会なのでぜひ一度でもシティキャストのユニフォームの袖を通してもらいたいと思いました。」と律儀に控えめに話されていたのが心に残りました。活動中の写真撮影はNGのため、事務局が用意してくれたフォトスポットで記念写真撮影。わずかな時間共に活動したメンバーと別れ、都庁を跡にしました。

活動時間2時間というのは余りにも短く、充実感を得て活動できたわけではなく、物足りなさがありました。

しかし、都事務局が「新たな活動」としてシティキャストのために提供していただいたこと、そして活動時間が2時間程度という効率性を度外視してまで一人でも多く活動できるように配慮していただきました。

東京2020大会のシティキャストは1年延期→外国人客の受け入れ中止→感染者の急増→無観客での開催ということで人員も減ってしまったと思いますが、東京都のシティキャスト事務局の皆さまの尽力のおかげで、活動の場を提供していただきありがとうございました。シティキャストの皆さんの貴重な1ページになったことと思います。